

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	「ちょっと暮らし」をベースとした、地域と滞在者の「笑顔と元気を生むマッチング」支援事業
対象地域	北海道内市町村（「ちょっと暮らし」実施市町村：函館市、森町、八雲町、厚沢部町、浦河町、黒松内町、本別町など53市町村）
対象地域の概要	<p>北海道は、大自然や豊富で安心な食などのリソースを背景に二地域居住、シーズンステイ、多地域居住など都市部の方々の様々なニーズがあるが、多くが過疎等の厳しい状況にある各市町村が単独でPR等を実施することは難しく、260余の企業・団体などが構成する「住んでみたい北海道推進会議」が、移住・交流に取り組む市町村や企業の中間支援組織として合同PRやノウハウの蓄積や提供などを行ってきた。</p> <div data-bbox="774 358 1444 1086" style="text-align: center;"> <h3>ゆっくり北海道暮らしをしてみませんか？</h3> <p>※出典：住んでみたい北海道推進会議</p> </div>
提案内容の概要	<p>従来より一歩進んだ二地域居住のスタイルとして、都市部の方がその地方を楽しみながら地域の新たな担い手として経験やスキルを提供することで、より地域との関わりを深めて自己実現を図ると共に、地域が外部の専門的能力をもった人材活用できるという、都市部からの滞在者も地方も双方が嬉しい「笑顔と元気を生む」システムを構築し、新たなスタイルの二地域居住を推進することへの支援を目指す。</p>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>北海道でスタートした「ちょっと暮らし」事業は、3年を経過して課題も見えてきた。その中で、「互いの状況を知らない者同士」という構図が浮かび上がっている。つまり、滞在される都市部の方が、自身の経験やスキルが地方で生かされることを知らない、その一方で、滞在者が様々な経験やスキルを持っていることを知らない受け入れ側（地域）、という構図である。</p> <p>「ちょっと暮らし」を実施している地域の多くが過疎地である現状では、各分野でのスキル不足は、担い手不足と相まって深刻な地域課題の一つである。</p> <p>都市部からの滞在者が、その地域で思い思いの滞在スタイルを選択する上で、こうした「自身の経験」を地域で生かす「地域貢献・自己実現型」が必要となっているが、そのシステムが今時点で構築されていない。</p> <p>こうした中、昨年度、厚沢部町が、国土交通省のモデル事業として、NPO法人国際社会貢献センターの協力を得て「人材受け入れツアー」を実施した。会員の約8割が商社OBで占める国際社会貢献センターからの参加者からは、地域資源活用に向けた貴重なアドバイスを受けるとともに、帰京後、参加メンバーが自発的に「厚沢部町応援団」を結成するなど、滞在中だけでなく、その後の関係においても、過疎地域にとって大きな可能性を示唆した結果となった。</p> <p>以上のようなニーズや課題に対応し、①a 二地域居住受け入れを行う各地域の詳細情報と、その地域が求めている人材やスキルの情報の集約 b 二地域居住希望者の滞在地に関する希望と、地域で提供が可能なスキルや経験の情報の集約 により、地域と二地域居住希望者双方のマッチングを行うシステム「地域・スキル情報バンク」（仮称）を構築すること、②システムの運営主体を確保すること ③システムを継続的に進めるための収益構造の研究を行うこと、などが喫緊の課題である。</p>
(2) 活動内容の案	<p>活動①：北海道で二地域居住受け入れをしている地域に対する都市部からの滞在者に求めるスキル・経験などでの地域への貢献の希望に関する調査</p>

内容：

「ちょっと暮らし」実施地域の事業者を対象に、首都圏等の都市部から二地域居住で地域に滞在している時に依頼したいこと、お願いしたいこと、アドバイスを戴きたいこと等などについてニーズ調査を実施する。ニーズの一覧を作成することで、スキルバンクのニーズ側の情報を構築することができる。具体的なニーズとしては、以下のようなものが挙げられると想定している。

システム技術に関するスキル（ホームページ構築等）、文化芸術に関するスキル（茶道、華道の経験者によるカルチャースクールの実施）、農作物の販路拡大の支援スキル（首都圏へのネットワーク）、旅館再生の具体的支援（コンサルティング）、料理に関するスキル（シェフによる期間限定レストラン等）

活動②：北海道での二地域居住を希望する都市部の方に対するスキル・経験を活かして地域貢献をすることへの希望の内容に関する調査

内容：

二地域居住を希望する都会の人がどのようなスキルを有しているか調査を実施する。この調査結果により、スキルバンクの供給側の情報を構築することができる。供給側の情報を出すためには、何らかのインセンティブが見える形にした調査が必要になると考えており、例えばスキルを提供することで地域住民との交流が増加することを示すとともに、二地域居住の滞在中に自己実現の場を提供することなど、費用が発生しない形でのインセンティブも検討する。

受入側の求めるスキルは、ビジネス面に限らず、音楽・演奏のスキル（バイオリン、ギター）、絵画のスキル（日本画の講習、個展の開催）、マラソン・運動指導（スポーツサークルの指導等）など、過疎地に不足しがちな事例も示しながら、幅広く調査したい。

活動③：「地域・スキル情報バンク」（仮称）の仕組みの検討と課題整理

内容：①、②の中間結果を受けながら、「ちょっと暮らし」滞在中の方へ、マッチングを試行すると共に、こうした結果を当推進会議会員間で意見交換し、構築へ課題などを整理する。

応募団体名	特定非営利活動法人 住んでみたい北海道推進会議 特定非営利活動法人 国際社会貢献センター
リンク	http://www.kurasube.com
部局／担当者名	NPO 法人 住んでみたい北海道推進会議 担当：武田
連絡先	011-251-3188
推薦市町村名	北海道厚沢部町